



さとやま学校だより.08

NPO法人 さとやま学校・東京

〒190-0202 東京都西多摩郡檜原村藤原 4814 旧藤倉小学校
info@satoyama-gakkou.org

2017年10月号

特集

藤倉獅子舞



檜原村の素晴らしいところの一つは、各集落にさまざまな伝統芸能が伝わり、現在でも地域の人々によつてそれが継承されていることです。そのほとんどは江戸時代が起源。江戸時代には飢饉とか、昭和時代には太平洋戦争とか、二百年以上の長い間には、大きな困難も多々あつた

に違いないのですが、それらを乗り越えて今まで続けられることは、まさに驚きです。

NPOの拠点のある藤倉では9月の第2土曜日、神社例大祭に獅子舞が奉納されており、私たちも準備から片付けにいたるまで、運営のお手伝いをしています。

祭りの直前の日曜日は花作りと会場設営。花作りは、主に地区の女性たちによつて担われ、花笠に付ける桜、菊などの造花を作ります。薄い紙を切つたり折つたりする細かい作業の連続で、ほぼ一日がかる大仕事。出来上がつた美しい花笠には、地域みんなの思いが込められているようです。

本番の獅子舞いは、土曜日の午後3時、藤倉小学校のすぐ近くの鍵取り家の庭でスタートします。その後、春日神社、藤倉ドームと移動し、9つの全ての演目（タチ）が終了するのは深夜12時です。ゆつたりした笛の調べに、獅子たちのパワーが炸裂し、当日は現代と過去が混ざり合うようなく思議な空気が立ちこめています。

村辺りでは、18世紀に入つて、江戸に向けて炭・木材が大量に生産されるようになり、山間村落の生活にも余裕が生まれました。この余裕が、多様な芸能を村々に成立させ、獅子舞も、村から村へと伝えられていつたということです。

かつての山村の暮らしは、人間の及ばない過酷なことがたくさんあつたことでしょう。人々はお祭りを通して、五穀豊穣、無病息災、天下太平を強い思いで祈願したに違いありません。又、質素な暮らしをしていた人たちにとつて、獅子や花笠がどんなにきらびやかに見えたか。祭礼は村民の娯楽や社交の場としての役割も果たしていました。

藤倉の獅子舞いは翌日の曜日、地区の人々が集まって行う片付けで終わります。終了後の人々の顔には、大仕事をやり終えた後の満足感、安堵感のようなものが漂っていました。

檜原村のお祭りに参加する人と、日本人が長い間営んできたコミュニケーションのあり方や、商業主義ではない、本物の地域文化と出会えます。

檜原村のお祭りに参加する
と、日本人が長い間営んできた
コミュニケーションのあり方や、商
業主義ではない、本物の地域文
化と出会えます。

藤倉獅子舞がこれからも
ずっと続していくように、NPO
としても応援したいと思つ
ています。

活動報告

川清掃

今年の夏、藤倉地区で行われている川清掃に、NPOのメンバーが参加しました。



川といつても、北秋川の最奥にあるこのあたりの川は、美しい渓流。木漏れ日が川面できらきら輝き、鳥はさえずり、ひんやりと冷たく澄んだ水が、苔むした岩の間を表情豊かに流れ行くような絶景スポットです。

もちろん、こんなところにあってはならないような空き缶など、ゴミもあちこちに落ちていて、観光客? のマナーの悪さにはがっかりします。人目がつかない場所が多いせいか、不法投棄と思われるものもあります。

しかし、それでも、休日に、こうやって定期的に集まり、ボランティア清掃をしている地元の人たちのおかげで、地域はきれいに保たれています。檜原村全体でも、たくさんの人元の人たちが、こうやつて活動していることでしょう。本当に感謝しなければと思います。

す。

数人ずつのグループに分かれ、流れに逆らいながら、歩いてゴミを拾っていくのですが、この渓流歩き、街から来た人にとっては、なかなかレジャーとしてやる沢登りのようなスリルとワクワク感を味わえるので、町から来た人にとっては、なかなか楽しいものです。



事務局から

◎農業体験の予定

ほぼ毎週末に活動しています。10月は雑穀や大豆の収穫。麦作りの準備などを行います。日程が変更になることがあります。参加ご希望の方は事前にお知らせください。

◎事務局ボランティア募集中です。
仕事内容—パンフレットの配布など

檜原村旧藤倉小学校を拠点に活動

をスタートした「NPO法人さとやま学校・東京」の活動状況をみなさまにお伝えするための月刊情報紙です。みなさまのご感想やご意見をお待ちしています。

②10月15日（日）13時～16時
お話 季節の彩りと雑穀
（お正月を中心に）

■プログラム
③11月4日（土）13時～16時
お話 在来種を未来に受け継ごう！
料理 在来作物のオカズ

■参加費

各回1500円
+保険代100円

■定員

各回先着12名

■持ち物

エプロンなど

■会場

檜原村地域交流センター

■お申し込み

（一社）檜原村観光協会

042（598）0069

■アクセス

車・武蔵五日市駅より15分
バス・武蔵五日市駅より西東京バス

■お申し込み

で約20分。「元郷」下車1分

■お申し込み

（一社）檜原村観光協会

042（598）0069

檜原村・食文化探検

檜原村地域交流センター「森の学校」のプログラムとして、当NPOが企画している「檜原村・食文化探検」が10月1日にスタートしました。

急峻な斜面畑を耕して、自らの食べるものを生産して来た檜原村の農業は、一般的な農業とは違う独特的の